

ゆうあいえほんだより

2019年6月発行

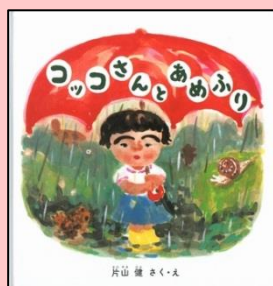
Akiko Aoki

夏のような暑さの日もあれば、朝晩はまだまだ冷えたりと体調管理が難しい日が続いていますね。6月は梅雨の時期でもあり、お休みの日も家で過ごす日も多くなるのではないのでしょうか。そんな時には、ぜひ絵本をお子さんと一緒に楽しみませんか？子どもの想像力は無限大です。絵本は、一場面しか描かれていませんがその前後を想像し、自由な発想で楽しめます。1日1冊でも良いので、親子で絵本の世界を楽しんでもらいたいなと思っています。



あめかな！
作・絵：U・G・サトー
出版社：福音館書店

『どんより空からぼつり、ぼつり。その雨はどんどん強くなり…やがて雨が上がって明るい光が下りてくる。』そんな情景が、抽象画を使って描かれています。絵の色使いが素晴らしく、ことばも短いため0歳から楽しめる一冊。



コッコさんとあめふり
作・絵：片山健
出版社：福音館書店

一度は誰もが作ったことのあるてるてる坊主。コッコさんもてるてる坊主を作って晴れるようお願いをします。なかなか思い通りにならず、試行錯誤。念願叶って晴れた外の様子が、それまでの色彩とガラッと変わってみずみずしく、キラキラした感じが生きたように描かれている。



だるまちゃんとかみなりちゃん
作・絵：加古里子
出版社：福音館書店

雨の日。だるまちゃんが外に遊びに行こうとしたら、空から落ちてきたのは、かみなりちゃん！泣いているかみなりちゃんを一生懸命励ますだるまちゃん。2人のやり取りが実に面白い。無事お父さんも迎えに来て、お礼にかみなり町へ招待されます。かみなり町は未来都市。50年前に発売された絵本なのに、今でも未来都市だと感じれるのは、さすが加古さんの作品だなと思った一冊。

【今月の絵本作家】林明子さん



誰もが人生で一度は林さんの絵本に出会ったことがあるのではないのでしょうか。

林さんは、あるインタビューの中で、絵本を書くことについて以下のように話しています。

子どもの眼というのはおとなよりずっと高いわけ。それに、自分の経験から言うと、子どもは何でも敏感に吸収しちゃうし、心に刻んじやうのね。だから、最高の絵を描かなきゃという気持ちはある。

そんな気持ちで描かれている林さんの絵は、温かくそして、絵からその登場人物の心情が手に取るように分かるなと読み聞かせをしていて感じます。

